

園庭の桜の木

対象児：4歳児 きく組

作成者：坂本七海

作成日：2022.05.11

○ねらい 春の自然に触れ、自分の思いを言葉で伝えたり、友だちとかかわって遊ぶことに喜びを感じる。



○保育の振り返り

5月になって桜の花も散り、園庭の木は緑の若葉が生い茂っています。桜の木が春から夏に変化していることに気が付いたきくぐみさん。「葉っぱまで手が届くよ!」「あの高い所もジャンプしたら届くんで!」と楽しそうな子どもたち。「みんな大きくなったんだね～」と保育者が声をかけると、年少さんの頃よりできるようになったことをたくさん話してくれました。また、木の実をみつけて「なんかサクランボみたいな落ちてた!」「あ!木についとる!」「あそこにもあった!」と、次々に見つけ、足でつぶしてみたり、袋に集めたりする姿が見られました。部屋に帰ってから、『さんぽのき』という絵本の読み聞かせを聞き、「幼稚園の木みたい!」「今日遊んだな～」と振り返ることもできました。

園庭にはいろいろな虫や木の実、草花があり、子ども達は移り変わる季節に合わせていろいろな発見に出会い、自然に触れて楽しんでいます。見つけたことを友だちに伝えたり、興味を持って自分から輪に入ったりする姿もあり、子どもたち自身も成長を感じているようです。また、子ども同士をつながりを大切にするとともに、季節感を意識した活動（拾ったり見たりした自然物を使った活動）も考えていきたいです。（健康的な心と体、協同性、自然との関わり・生命尊重）